

伝えよう！自分たちのオリジナル物語

— SNS を交流ツールとしての利用を通して —

浜松市立豊岡小学校 教諭 菊地 寛

hiroshikikuchi0203@yahoo.co.jp

キーワード：小学校、国語、動画編集、SNS

1. 従来の課題

小学校国語科において、各学年の「書く」領域において想像したことを基に物語などを書くことが学習指導要領の中に書かれている。ねらいは、順序よく書くことや表現の効果を考えることなど発達段階に合わせて設けられている。実際の学習活動では、一人一人が構成メモや用意された写真や絵などを基にして物語を考えて書き、完成したものを友達と交流し合うことが、本実践者も含めて多く行われてきた。しかし、書くことが苦手な子にとっては負担が大きく、一人でストーリー性のある物語を書くことは指導に時間もかかり、十分な内容を書かせることができにくかった。また、相手意識がないまま書かれている物語は、誰に向けてか考えられていないので、内容が稚拙過ぎたり、まとまりがなかったりと何を伝えたいのかはっきりしないことが多かったのではないだろうか。

2. 目的・目標

(1) デジタル物語の作成

本実践は5年国語科「物語をつくろう」である。学習指導要領における国語科「書くこと」の目標（5、6年）にある「文章全体の構成の効果や表現の効果を工夫することができる」が、本実践の大きな目標である。特に、いろいろな文章の組み立てに気付き、目的・写真の構成の効果といった点から、組み立てを選んで書いたり、表現の効果を工夫して書いたりすることができることをねらいとした。



写真1 ストーリーの推敲の様子

本実践は、物語を作る過程においてデジカメで写真を撮影したり、必要な情報を収集したりして、それを整理して表現する学習活動、つまり、「活用型学習」を目指している。言語活動そのものとも言える。一人一人が書いた物語をグループの中で再構成し、一つにまとめる。一人で取り組むには限界があっても、グループで協働して仕上げることで、より良いものを作り上げることができると期待できる。また、写真と文章の往復をしながら物語を考え仕上げることにした。写真では伝わらないことを文章で補ったり、より効果的な

写真をグループの中で話し合っただりとする学習活動を行うことで、思考力や判断力が育つと考えた。また、ICT を使って物語を作ることで、何度も試行錯誤を繰り返しながら思いを実現できるため、思考力や表現力が育つのではないかと考えた。

(2) SNS で交流

本実践は、物語を作った後、それを交流校の児童に伝えるという必然性のある具体的な体験活動を学習のゴールとした。相手に伝えるということを意識して、物語の内容や言葉を考えて文章を書くことをねらいの一つとした。また、交流相手校にSNSで物語を視聴してもらった後に、感想や評価を書き込んでもらうことで自分たちの物語の自己評価に生かすことができると考えた。

また、交流ツールとしてSNSを利用することで、個性に関係なくどんな子も同じ様に書き込みができ、交流することが期待できる。自由に書き込みが進む中で、トラブルや問題が起こりうると考えた。その時に、情報モラルの学習を行えば、実感の伴った学習が行え、子どもの理解が深まり、その後は、情報モラルを意識して、内容を考えて書き込みをすることができるようになることを期待した。

3. 実践内容

3. 1 デジタル物語の作成

学習の流れについては、まず、物語のテーマをまずグループで決定をする。それに合わせて、写真を撮影。そして、全員が物語を書いた後、グループで一つにまとめる。最後に、コンピュータでデジタル物語を作るという学習の流れで行った。

物語作成において、ICT を活用した場面は二つある。一つは、デジカメで写真を撮影するところ。もう一つは、コンピュータで動画編集をするところ。共通することは、使いやすい環境にしてあることと、児童にとって操作が簡単であることである。デジカメについては、ただ撮らせるのではなく、いろいろな方向、高さを変えて撮ることを指導した。まず、デジカメラと電子黒板をつなぎ、アングルによって写り方が違うことを確認させた。各自の個性が反映できるように、グループ内でそれぞれが撮影し、多くの写真を撮るように



写真2 撮影をしている様子

した。そして、撮影した写真はサムネイル印刷をし、どの写真を選ぶのか理由を付けてグループ内で話し合いをして決定させた。その写真とグループのテーマに合わせて物語を一人一人が書いた。そして、グループで一つの物語を作り上げるため、互いの良いところを中心にまとめていった。

動画編集については、教育用ソフトを活用したことで、児童たちは感覚的に操作ができ、必要以上に時間を掛けることなく作成することができた。作業としては、画像を配置することと音声に合わせて**写真を長くすること**と表紙を作ることである。協働で学習が勧められるように、グループで1台のパソコンを使い、パソコンをみんなで囲み、意見を出し合いながら作成をした。また、音声を録音することで、自分たちが録音した音声を聞き直し、速さや声の大きさ、話し方などを確認して、何度でもやり直すことができた。



写真3 録音前に原稿を確認している様子

3. 2 SNSで交流

SNSについては、子どもたちが簡単にすぐに利用できるようにタッチパネルで操作することができる携帯端末を使用し、まずは学級内のイントラネット内で利用した。国語科の他の単元でのグループ協働学習でも学級内でSNSを使用し、交流ツールとして慣れ親しんできた。どんな子も同じように書き込みができ、記録としても残るので、今まで以上に活発な話し合いが行われるようになった。



写真4 SNSの書き込みを確認する様子

そして、9月からインターネット上でのSNSで交流を始めた。インターネット上のSNSを利用するというので、個人情報について扱う情報モラルの学習をまず行い、書き込んではいけないことを子どもたちとルールを作った。利用が進むにつれて、書き込み数

が増えていった。予想されたことではあったが、問題になり得そうないろいろな書き込みが少し目立つようになってきた、その時を逃さず情報モラルの授業を行い、指導を行った。そして、どんなことに気を付けて書き込めばよいのか考えさせた。

デジタル物語をSNSに載せたことで、交流校相手から感想や意見が多く書かれた。それに対して、グループの思いを確認したり、思いが伝わったことを確認したりした。そして、書かれたコメントに対して書き込みをし、また、それに対してから相手からのコメントを受け、交流が深まっていった。

4. 成果

学習活動の目的意識がはっきりしているのも、児童たちは常に意欲をもち、協働学習ではあるが一人一人が何をすべきかはっきりと分かった中で、学習を進めることができた。個人ではなくグループでストーリーを練り合ったことで、子ども同士の絆の深まりを感じた。個人で考えたストーリーを一つにまとめるときには、修正ではなく、良いと思うところ、真似したいところに赤線を引き合った。赤線の重なったところを基に、グループのストーリーを練り合った。この学習活動の過程により、互いの考えを認め合ったり、互いの良さに気付いたりすることができた。また、写真に合わせて文章を考えることで写真では表現できないことを文章で分かりやすく伝えるという構成力、表現力が育った。

コンピュータを用いての動画作りは、簡単な操作性のために子どもたちのパソコンスキルに依存することなく、協力し合って作成することができた。そのため、写真に音声を合わせたり、情景にあった言い方を工夫したりと語りを工夫しようと思えるようになった。SNSについては、書き込まれる内容について、自分たちの物語のテーマが何だったのか振り返る材料になっていた。そのテーマと違った評価だった場合は、自分たちの思いや考えを書き込み主張することができていた。それだけ、強い思いをもって活動をしていたことであり、評価されたことについて鵜呑みにするのではなく、自分たちが言いたいことは何か考え、反論するといった判断する力も身に付けることができた。また、SNSで書き込む内容も相手はどう思うのか考えて、批判的にならず書き込むことができた。

学習全体を通して、物語という形ではあるが、自分たちの思いを交流相手に伝えるという相手意識や目的意識を明確にもたせることで、ただ単なる物語づくりではなく、伝える力も身に付けることができた。

5. 今後に向けて

本実践では、物語をデジタル化し作成した。その際、携帯端末とパソコンを利用した。携帯端末は、どこでも利用ができ、協働学習においてとても有効であった。他教科でも同様のことが言えるのか更に実践を重ねていきたい。

SNSについて、他の教科や学年でも利用ができるのか実践研究を積みたい。そして、SNSの教育における可能性を探っていきたい。